

ホンサナエ

Gomphus postocularis Selys

トンボ目サナエトンボ科

石川県カテゴリー 絶滅危惧Ⅰ類

国カテゴリー なし

選定理由

1950年代でも極めてまれであったが、この40年間に県内では確認例がない。

形態

腹長33~36mm、後翅長29~32mmで、黄色の地に黒紋のあるずんぐりしたサナエ。オスは腹端がふくらみ、尾部上付器は強くまがっている。

国内分布

北海道から本州、四国、九州にまで分布する日本特産種。福井県では最近もかなり生息するが、富山県からは近年記録されていない。

県内分布

1950年代に金沢の低山帯の水域でごく僅かに見られたが、以降はまったく確認できない。金沢の内川地区の溪畔で、1957年6月9日に採れた1♀の標本が、実在する唯一のものである。

生態

平地~丘陵の中流域の砂泥底に育ち、成虫は5~6月に出現する。未熟期には付近の樹林に移動し、成熟すると流れの近くに来て水辺の土などに静止したり、水面低く飛んだりするが、定住性は乏しい。メスは、腹端に大きい卵塊を形成してから、打水産卵する。

生息地の条件

自然状態のよく保たれた河川の中流域。流量が安定して保たれていて、底は砂泥~砂礫質。農業や廃水による汚染がなく、岸辺に岩石や砂泥もあること。付近に樹林があり、摂食や休止の場所が確保できることも必要。

生存の危機

河川の中流域は、上流に比べ人工的な汚染を受けやすい。堰堤の造設で、上手は淀み下手は流量が減る傾向がある。流れの直線化や堤防のコンクリート化工事、水辺の除草や火入れ、摂食期を過ごす林野の開発や害虫防除、道路建設と車の増加なども負の要因。過去の農業や洗剤などの影響が、遅れて顕現したとも考えられる。(A)

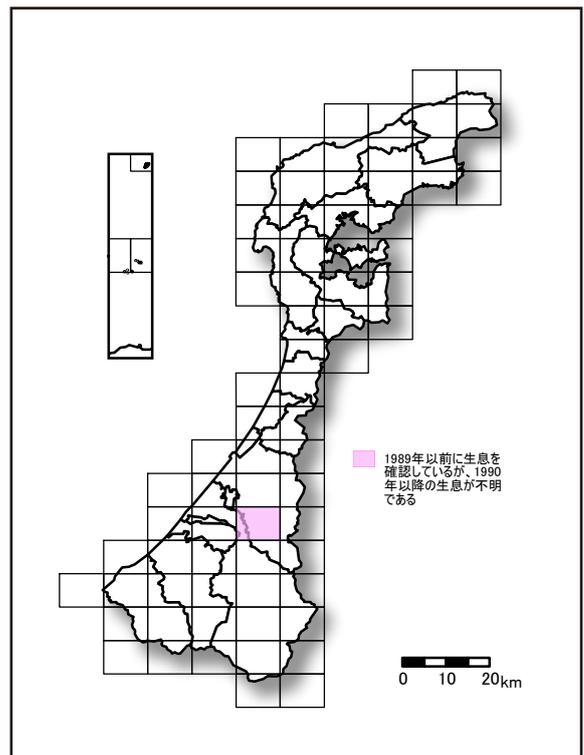
参考文献

武藤 明 1998. 昆虫の生態をめぐって. とっくりばち, (65) : 8-10.

武藤 明 2007. 石川県の蜻蛉に関する最近の知見. とっくりばち, (75) : 24-28.



標本提供者: 武藤明



県内の分布